

平成18年度学校基本調査報告

徳島県統計調査課

調査結果の概要

はじめに

学校基本調査は、統計法（昭和22年法律第18号）による指定統計第13号として、昭和23年以来文部科学省所管のもとに毎年5月1日現在で全国一斉に実施されているものであり、学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的として、学校に関する基本的事項を調査するものである。

この報告書は、平成18年度に実施した調査のうち、本県における調査結果から利用度の高いものを重点に収録したものである。

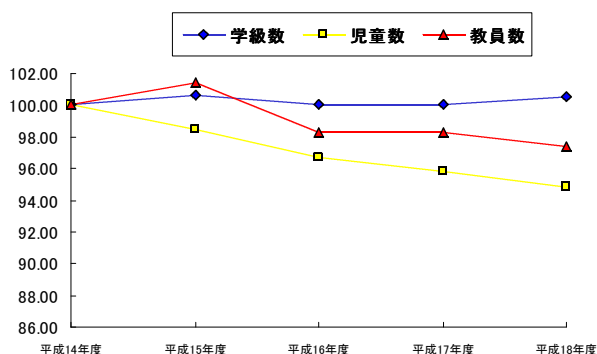
I 学校調査

1 小学校

小学校は前年度より2校減少し274校（うち国立1校，私立2校）で，児童は43,595人と前年度に比べ474人減少した。学級数は2,037学級と前年度より9学級増加し，本務の教員は3,266人と29人減少した。

1学級当たり児童数は21.4人と前年度に比べ0.3人減少し，本務教員1人当たりでは13.3人と0.1人減少した。

図1 小学校の児童数，学級数，本務教員数の推移
(平成14年度=100)



長期欠席児童（前年度間に通算30日以上欠席した児童）は，445人と前年度より54人増加し，全児童に占める比率（長欠率）は，1.02%と前年度より0.13ポイント増加した。

表1 小学校理由別長期欠席児童
(30日以上欠席した児童)数 (単位:人,%)

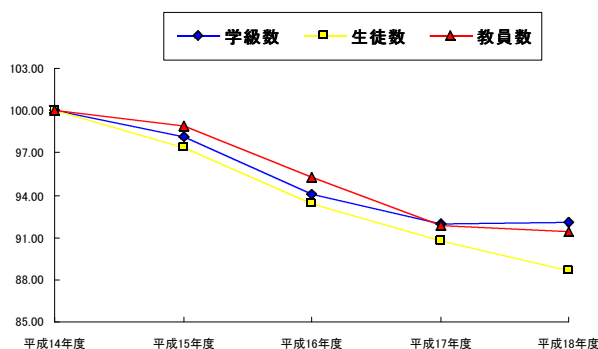
区分	理由別児童数					長欠率
	計	病気	経済的理由	不登校	その他	
平成14年度	498	271 (54.4)	0 (-)	163 (32.7)	64 (12.9)	1.08
平成15年度	418	199 (47.6)	1 (0.2)	150 (35.9)	68 (16.3)	0.92
平成16年度	386	168 (43.5)	0 (-)	173 (44.8)	45 (11.7)	0.87
平成17年度	391	181 (46.3)	0 (-)	148 (37.9)	62 (15.9)	0.89
平成18年度	445	227 (51.0)	3 (0.7)	150 (33.7)	65 (14.6)	1.02

注) 括弧は構成比
(長欠率)=(長期欠席児童数)÷(児童数)

2 中学校

中学校は，前年度より1校増加し99校（うち国立1校，私立2校）で，生徒は22,747人と前年度に比べ535人減少し，学級は809学級と前年度に比べ1学級増加した。本務の教員については1,932人と前年度より8人減少した。

図2 中学校の生徒数，学級数，本務教員数の推移
(平成14年度=100)



長期欠席者は754人と前年度に比べ63人減少し，長欠率も3.31%と0.2ポイント減少した。

表2 中学校理由別長期欠席生徒
(30日以上欠席した生徒)数 (単位:人,%)

区分	理由別生徒数					長欠率
	計	病気	経済的理由	不登校	その他	
平成14年度	1,090	186 (17.1)	5 (0.5)	846 (77.6)	53 (4.9)	4.25
平成15年度	981	168 (17.1)	4 (0.4)	736 (75.0)	73 (7.4)	3.93
平成16年度	937	152 (16.2)	8 (0.9)	717 (76.5)	60 (6.4)	3.91
平成17年度	817	122 (14.9)	4 (0.5)	648 (79.3)	43 (5.3)	3.51
平成18年度	754	137 (18.2)	5 (0.7)	562 (74.5)	50 (6.6)	3.31

注) 括弧は構成比

$$(長欠率) = (長期欠席生徒数) \div (生徒数)$$

表3 高等学校学科別生徒数構成比
<全日+定時> (本科) 計

(単位:%)

	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	総合
平成14年度	100.0	69.1	3.6	10.8	10.5	0.4	1.9	0.7	1.6	1.3
平成15年度	100.0	69.6	3.3	10.5	10.0	0.4	1.7	0.6	...	0.1	1.2	2.6
平成16年度	100.0	69.6	3.0	10.3	9.3	0.4	1.6	0.5	-	0.3	1.2	3.7
平成17年度	100.0	69.3	2.7	10.1	8.9	0.4	1.4	0.5	-	0.5	1.3	4.8
平成18年度	100.0	69.1	2.7	10.2	8.8	0.4	1.3	0.5	-	0.5	1.8	4.8

4 盲・聾・養護学校

特殊教育諸学校は盲学校1校、聾学校1校、養護学校8校で前年度と同じだが、児童・生徒は盲学校63人(前年度比13人減)、聾学校55人(前年度比2人増)、養護学校770人(前年度比30人増)と全体で19人増加した。学級は盲学校23学級、聾学校22学級、養護学校222学級、全体では前年度より6学級の増加であった。本務教員は盲学校59人(前年度比2人増)聾学校56人(前年度比1人増)、養護学校564人(前年度比11人増)と全体で14人増加した。

また、本務教員1人当たりの在学者は盲・聾・養護学校全体で1.3人と前年度並であった。

5 幼稚園

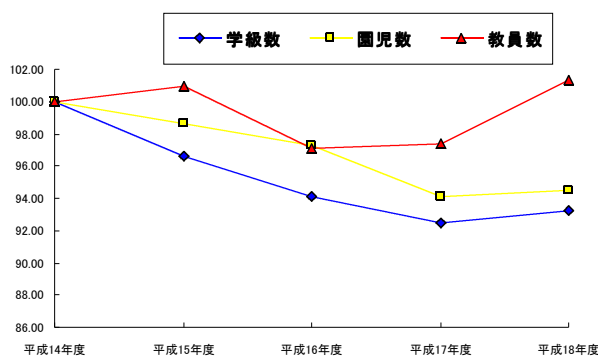
幼稚園は前年度より3園減少し227園(うち国立1園、私立13園)で、在園者は9,168人と42人増加した。学級は492学級と4学級増加したが、本務教員は775人と30人増加した。

3 高等学校

高等学校は、前年度より3校減少し、44校(うち私立4校)で、生徒23,371人と前年度に比べ677人減少した。そのため学級も678学級(公立の本科のみ)と前年度に比べ13学級減少し、本務の教員も1,958人となり15人減少した。

学科別生徒数<全日+定時>(本科)をみると普通科が16,094人と最も多く、次いで工業科2,370人、商業科2,044人の順になっている。

図3 幼稚園の園児数、学級数、本務教員数の推移
(平成14年度=100)



小学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の比率

$$\left(\frac{\text{本年3月幼稚園修了者数}}{\text{本年度小学校第1学年児童数}} \times 100 \right)$$

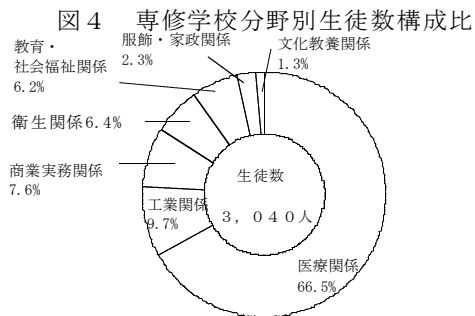
は全国平均57.7%を大きく上回る68.6%である。

6 専修学校

学校は前年度より1校減少し22校（公立2校、私立20校）であり、また県全体の学科は45学科であった。

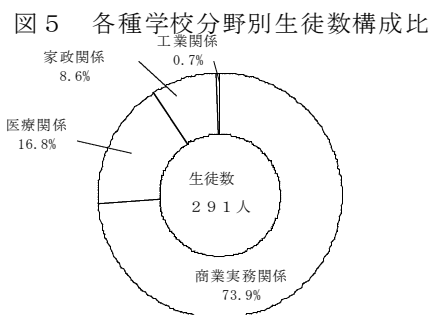
生徒は3,040人（公立1,092人、私立1,948人）と前年度より16人増加した。

生徒数の内訳では、医療関係が最も多く66.5%を占めている。次いで工業関係9.7%、商業実務関係7.6%となっている。



7 各種学校

学校は前年度より2校減少し17校（全て私立）であり、課程は前年度より1課程減少し14課程であった。生徒は291人と前年度より187人減少した。また、その内訳は商業実務関係が73.9%を占め、次いで医療関係16.8%、家政関係8.6%の順になっている。



県内の高等学校通信制は公立の定時制の併置校が1校であり、学科数は普通科と看護学科の2学科である。

生徒数は1,093人で前年度より80人減少した。

前年度の単位修得者は318人で卒業者は95人であり、入学者は156人と前年度より21人増加した。

II 不就学学齢児童生徒調査

不就学学齢児童生徒のうち、就学免除者は前年に引き続き該当なし、就学猶予者は該当なし、また、1年以上の居所不明者は該当なし、平成17年度間で死亡した学齢児童生徒は9人であった。

III 高等学校通信教育調査

表4 年齢別就学免除・猶予、居所不明者数

(単位：人)

区分	計	計		男		女	
		学齢児童 (6～11歳)	学齢生徒 (12～14歳)	学齢児童 (6～11歳)	学齢生徒 (12～14歳)	学齢児童 (6～11歳)	学齢生徒 (12～14歳)
就学免除者	計	—	—	—	—	—	—
	肢体不自由	—	—	—	—	—	—
	病弱・虚弱	—	—	—	—	—	—
	知的障害	—	—	—	—	—	—
	児童自立支援施設又は少年院に在るため	—	—	—	—	—	—
	その他	—	—	—	—	—	—
就学猶予者	計	—	—	—	—	—	—
	盲	—	—	—	—	—	—
	弱視	—	—	—	—	—	—
	聾	—	—	—	—	—	—
	難聴	—	—	—	—	—	—
	肢体不自由	—	—	—	—	—	—
病弱・虚弱	—	—	—	—	—	—	
知的障害	—	—	—	—	—	—	
児童自立支援施設又は少年院に在るため	—	—	—	—	—	—	
その他	—	—	—	—	—	—	
1年以上居所不明者	—	—	—	—	—	—	—
学齢児童生徒死亡者(平成17年度間)	9	5	4	3	3	2	1

となっている。

IV 卒業後の状況調査

1 中学校卒業生

平成18年3月の中学校卒業生は、7,888人(男4,029人、女3,859人)で前年度より350人減少した。

うち高等学校等への進学者(就職進学者を含む。)は、7,758人で進学率98.4%と全国平均97.7%を上回っている。

就職者(就職進学者を含む。)は39人で前年度より17人減少し、就職率は0.5%と前年度より0.2%減少した。

就職先を産業別にみると第3次産業(「電気・ガス・熱供給・水道業」, 「情報通信業」, 「運輸業」, 「卸売・小売業」, 「金融・保険業」, 「不動産業」, 「飲食店、宿泊業」, 「医療、福祉」, 「教育、学習支援業」, 「複合サービス事業」, 「サービス業(他に分類されないもの)」, 「公務(他に分類されないもの)」)がもっとも多く48.7%を占め、次いで、第2次産業(「鉱業」, 「建設業」, 「製造業」)の23.1%である。

就職先を県内・県外でみると、92.3%が県内

図6 中学校卒業生の産業別就職者比率

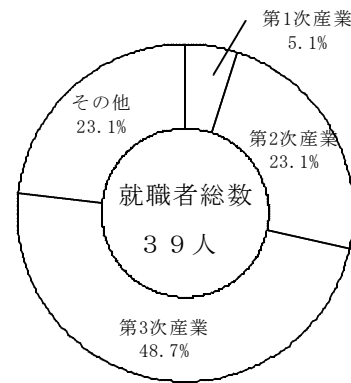
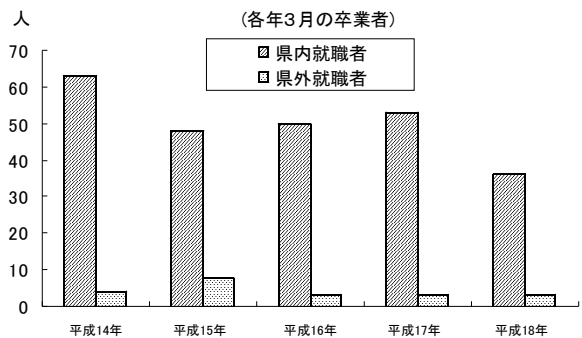


図7 中学校卒業生の就職者数推移



2 高等学校卒業生

平成18年3月の高等学校卒業生は7,745人（男3,883人、女3,862人）で、前年度と比べ416人減少した。うち大学等への進学者（就職進学者を含む。）は3,876人で、大学等への進学率は50.0%と前年度と比べ0.7ポイント増加しており、全国平均の49.3%を上回っている。

また、大学等への入学志願者は、4,303人（大学3,728人、短期大学575人）で前年度と比べ107人減少した。大学への志願内訳をみると、普通学部が91.1%と圧倒的に多く、次いで工業学部の2.7%である。短期大学は普通学部が70.3%と最も多いが、次いで多いのは商業学部で10.1%を占めている。

高等学校卒業生のうち、就職進学者を含む就職者総数は1,606人で前年度に比べ90人減少した。

また、就職率は20.7%と前年度に比べ0.1ポイ

ント減少した。

就職先を産業別にみると、製造業が668人と最も多く、次いで卸売・小売業226人、サービス業149人、医療、福祉113人となっている。

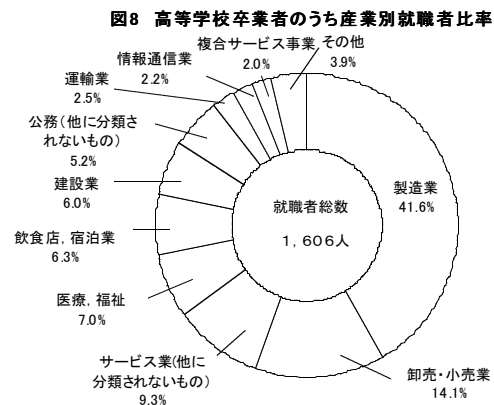


表5 高等学校卒業生の学部別入学志願者数

(単位：人)

区分	計	普通	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	福祉	その他	総合	
大学	計	3,728	3,397	5	102	99	-	4	-	-	55	66
	男	1,995	1,789	4	98	48	-	2	-	-	25	29
	女	1,733	1,608	1	4	51	-	2	-	-	30	37
短期大学	計	575	404	17	28	58	-	13	-	4	8	43
	男	123	65	8	24	10	-	4	-	1	-	11
	女	452	339	9	4	48	-	9	-	3	8	32

3 盲・聾・養護学校（中学部）卒業生

平成18年3月の盲・聾・養護学校（中学部）卒業生は全体で67人であり、そのうち高等学校等への進学者は66人で進学率は98.5%であった。

4 盲・聾・養護学校（高等部）卒業生

平成18年3月の盲・聾・養護学校（高等部）卒業生は全体で111人であり、そのうち大学等への進学者が2人で進学率は1.8%、就職者は21人で就職率は18.9%であった。